



スペイン国立バレエ団2024 日本公演



世界最高峰のフラメンコ・バレエ。
これぞ、スペインの情熱。
総勢80名超のカンパニーによる圧巻の舞台を、オーバード・ホールで！

日時:2024年11月17日(日) 14時開演(13時15分開場)

会場:オーバード・ホール 大ホール (富山県富山市)

<https://www.aubade.or.jp/>

主催:(公財) 富山市民文化事業団、富山市

お問合せ:(公財) 富山市民文化事業団 総務企画課 山本・税光

TEL.076-445-5610 (平日 8:30~17:15)

yanamori@aubade.or.jp (山本) zeikou@aubade.or.jp (税光)

6年ぶりに待望の来日公演！日本ツアー初演を、ここ富山で。

日本でも高い人気を誇り、1989年の初来日以来、多くの熱心なファンを生み出している“スペイン国立バレエ団”。スペイン舞踊の最高峰として、精鋭ダンサーたちにより世界を魅了し続けているバレエ団の、6年ぶり待望の来日公演が決定。コロナ禍による渡航制限により来日が叶わなかった2021年から3年、今回満を持して実現する日本ツアー初日を飾るのが、ここ富山オーバード・ホール大ホールとなる。

鬼オルベン・オルモ(芸術監督)率いる、総勢80名超のカンパニーによる圧巻の舞台は必見です。

華やかでダイナミックな群舞の魅力が堪能できる王道プログラム

ここ富山では、迫力の群舞を中心に、現代的なソロ作品など、世代の異なる振付家による多彩な作品を披露する。優雅で華麗なスペイン舞踊で冒頭を飾ってくれるのは、宝石にも例えられる国立バレエ団の代表作『リモス』。詩のように美しい、ピアノの生演奏による女性舞踊手のソロ作品『パストレラ』、フラメンコの手拍子パルマや靴音をならすサパテアードで、スペインらしい力強さ、生命力を感じさせてくれる『ボレロ』(ホセ・グラネーロ版)と続き、後半の『グリート』は、現代フラメンコの魅力が詰め込まれた大作。艶やかでエネルギッシュな群舞、官能的なデュオに圧巻のソロ、歌や演奏と、フラメンコのエッセンスを存分に満喫できる。そして、あらたに、男性舞踊手らによる名作『サパテアード』がプログラムに追加になることが決まった。

心震える、最高峰のステージは、まさに壮観！スペインの情熱を体感してほしい。

※一部の演目において、特別録音による音源を使用します

～スペイン国立バレエ団 2024 日本公演によせて～

スペイン舞踊をして「情熱的」と表現するのは甚だ陳腐かも知れないが、それ以上見事に表現した言葉は、やっぱり見つからない。

重いドレスの裾を翻し、滴る汗の隙間から覗くあの熱い目が語るものは、やっぱり、情熱以外の何でもない。その熱に捕らわれたが最後、穏やかだった日常は、終わりを告げる。心は、抑えきれないざわめきに支配されてしまう。

スペイン国立バレエ団の来日が決まると、魂が疼き出す。

心待ちにしていたあの人にやっと会える、そんな動揺にも似た熱い期待に胸を膨らませる。

今回も、絶対に感動が待っている。出会うのが怖いぐらいの感動が、やって来る。

伝統を守りながらも、現代の洗練をさらりと着こなす作品たち。スペイン以外の何物でもない動きと音楽と感性が、華々しく繰り広げられる。

スペイン舞踊と一口に言っても、フラメンコをはじめエスクエラ・ボレーラ、クラシコ・エスパニョール(ダンサ・エスティリサド)、民族舞踊と四つのジャンルがあり、さらに現代ではコンテンポラリーを取り入れる場合もあり、中々に複雑だ。

しかしそれぞれの色を失うことなく全てを網羅し、一つの舞台に見事にまとめあげ、観客を満足させてくれる。

／東 敬子(フラメンコ・ジャーナリスト)

プロフィール

スペイン国立バレエ団 Ballet Nacional de España



1978年、スペイン文化省により創設。初代芸術監督にはアントニオ・ガデス(1978-1980)が就任、その後ルイス・ソレル(1980-1983)、マリア・デアビラ(1983-1986)、ホセ・アントニオ(1986-1992)、アウローラ・ポンス、ナナ・ロルカ、ビクトリア・エウヘニア(1993-1997)、アイダ・ゴメス(1998-2001)、エルビラ・アンド(2001-2004)、ホセ・アントニオ(2004-2011)、2011年～2019年アントニオ・ナハロが歴任。2019年9月よりルベン・オルモが就任。

世界中の名高い劇場で、ホセ・グラネーロの「メデア」、マリエマの「ダンス・イトロニオ」、アルベルト・ロルカの「リトモス」、ホセ・アントニオの「ソレルのファンダンゴ」、ホセ・アントニオの「三角帽子」、ピラール・ロペスの「アラン

フェス協奏曲」、アントニオ・ガデスの「血の婚礼」「フエンテオベフナ」などを上演してきた。世界中の観客から愛され、数々の賞も受賞。ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場の1988年シーズンの最優秀外国作品として批評家賞、1991年日本の批評家賞、1994年メキシコ・シティの最優秀バレエとして批評家賞、1999年スペインの新聞エル・パイス誌(テンタシオネス)は「ポエタ(詩人)」に賞を授与した。2002年スペインのヘレスで行われたフラメンコ・フェスティバルでは、アントニオ・ガデスの振付作品が批評家賞と大衆賞を同時に受賞している。日本でも高い人気を誇り、1989年の初来日以来、多くの熱心なファンを生み出している。

芸術監督 ルベン・オルモ Rubén Olmo



2019年9月1日から、アントニオ・ナハロに代わって芸術監督に就任し、躍進を続ける鬼才ルベン・オルモ。1980年セビージャ生まれ。9歳からコンセルバトリオ(舞踊専門学院)に学び、14歳でアンダルシア舞踊団アトリエに学ぶ。16歳でハビエル・バロン舞踊団『パハロ・ネグロ』で初舞台。同年マドリードに出て、アイダ・ゴメス舞踊団で活躍。18歳でスペイン国立バレエ団入団。ラモン・オージェル振り付け『セレスティーナ』で主役を踊る。2002年に退団。後は、エバ・ジェルバブエナ舞踊団、フラメンコ・ミュージカル『ロス・タラントス』、ラファエル・アマルゴ舞踊団などで活躍。2006年には自らの舞踊団を立ち上げ『ベルモンテ』『ピノキオ』(2007年)を上演。

2010年に上演した『トランキロ・アルボロト』でマントンを用いた振付が注目され、2011年から2013年までアンダルシア舞踊団監督を務め、2015年にはスペイン文化省の舞踊国家賞を受賞。2019年のヘレス・フェスティバルでは作品『オラス・コンティゴ』で批評家賞を受賞した。スペイン舞踊の保護と普及、また前衛的な要素を取り入れ、フラメンコにも新しい潮流を取り入れることを信念とし、スペイン国立バレエ団のさらなる発展を目指している。

公演概要

■日時:2024年11月17日(日) 14時開演(13時15分開場)

※上演時間:約2時間(休憩含む)

■会場:オーバード・ホール 大ホール(富山県富山市牛島町9-28)

■入場料<全席指定・税込>

S席13,000円 A席11,000円 B席8,000円

C席5,000円 U-25 3,000円※限定50席

■チケット発売日:

アスネット会員先行:8月17日(土)のみ

一般発売:8月25日(日)~

■プレイガイド

・アスネットカウンター(オーバード・ホール 大ホール1階) TEL.076-445-5511

営業時間/10:00~18:00 定休日/毎週月曜日(月曜が祝日の場合、翌平日休み)

・アスネットオンラインチケット(24時間予約可) <https://www.aubade.or.jp>

・チケットぴあ t.pia.jp(Pコード:527-815) ・ローソンチケット l-tike.com(Lコード:52433)



※未就学児童入場不可

※U-25:鑑賞時25歳以下対象。公演当日の空席より座席指定。

アスネットカウンター、アスネットオンラインのみ取り扱い。

※車椅子席(A席エリア)はアスネットカウンターのみ取り扱い。

※やむを得ない事情により、演目等が変更にある場合があります。

公演詳細はこちら▼



主催:(公財)富山市民文化事業団、富山市

共催:北日本新聞社、チューリップテレビ、FMとやま

後援:駐日スペイン大使館、インスティトゥト・セルバンテス東京、一般社団法人日本フラメンコ協会

【日本ツアー他公演】

◇11月20日(水)~24日(日) 東京文化会館・大ホール

◇11月27日(水) Niterra 日本特殊陶業市民会館 フォレストホール(名古屋)

◇11月29日(金) 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール